

自己血輸血

Q 前置胎盤と診断され、先生から「自己血輸血」を勧められました。予備知識がまったくないので、判断がつきません…

妊娠30週に入り、健診で前置胎盤と診断されました。担当の先生から帝王切開での出産となる可能性が高いから「自己血輸血」をしたほうが良いのでは…との説明を受けました。メリットや注意点を教えてください。

A 「自己血輸血（貯血）」では、自分の血液を使うため、感染症やアレルギー反応による発熱やじんましん、腎障害、ショックなどの危険性を防ぐことができます



教えてくれたのは
福田病院 理事長 福田 稠さん

帝王切開などで大量出血が予想される場合は、この方法で準備することも

「自己血輸血」とは、文 血することです。ある程度字どおりの自分の血液を輸 度の出血が予想される手

術を行う前に、事前に自分の血液を採取し保存しておいて、手術や術後に輸血を行うものです。ほかの人の血液を輸血する場合、色々な検査を行います。それでも時には副作用が起る可能性があります。非常にまれですが肝炎やエイズなどの感染症や、発熱・じんましんなどの拒絶反応、移植片対宿主病（GVHD）といつて他人の血液を輸血した際に、患者さんの体の組織を攻撃する疾患などのリスクがあります。

希望があってもできないこともあります。また手術中に予想以上の出血があったときは、他人の血液を輸血することもありますし、出血が少なく使用しなかつたり余った場合は、血液は廃棄されます。

ご自身の血液を使用する場合、これらの副作用の心配はありません。まれな血液型の人でも輸血できるなどのメリットもあります。前置胎盤で帝王切開での分娩になるケースや、術までの時間が短いときや、極度の貧血の方はご

自己血は最大35日間保管できます

ママの「？」を募集

妊娠・出産・赤ちゃんに関する質問を募集中。産婦人科の医師に聞いてみたい内容、名前（匿名の場合はペンネームも）、年齢、住所、電話番号を書いて、〒860-8511 熊本リビング新聞社「プレママ」係 ※すべてが採用されるわけではありません。応募者の個人情報紙面製作でのみ使用されます。